

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 12月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101181
法人名	医療法人中沢会
事業所名	グループホームN・Sホーム
所在地	前橋市下大島町596番地1号 (電話) 027-266-4825

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年12月17日

【情報提供票より】(平成20年 11月 30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 14人, 非常勤 6人 常勤換算	18.3人

(2)建物概要

建物構造	木造造り・RC造り		
	1~3 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1,100円/日 円	その他の経費(月額)	出納管理料 60円/日・持込家電使用料 40円/日	
敷金	有 50,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	600 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円

(4)利用者の概要(11月 30日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	14 名	要介護2	10 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上毛病院・済生会前橋病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3ユニットはそれぞれ独自の理念を作成しているが、安心な環境、入居者の意志を尊重し、自己決定を大事にしていることは共通である。入居者は毎日、日記をつけて自分の思いを綴ったり、衣類の選択をしたり、お化粧品などをされている。職員はホームを家族が共同生活を行っている家庭と捉えており、入居者の入院や職員の結婚式に際しても入居者の参加を考えている。ホームの庭に野菜や花を植え、採れた野菜を利用したり、リクエストメニューをお聞きし食事を豊かにしている。尚、食事献立は3ユニットとも独自のものである。家族会は年に2回開催し、秋期は一泊旅行などを行い、楽しい思い出作りをしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、包丁等危険物のより安全な管理方法やホーム内の時計の位置などについて指摘されている。検討した結果、危険物等の管理については使用後に施錠することに改善し、時計の位置は現状のままとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、リーダーが職員の意見を聞いて管理者が作成している。評価の意義は、職員全員が確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に行われ、行事やヒヤリハット報告等が中心で質疑応答の時間も設けているが、参加者の意見、感想が少ない。現在、構成メンバーには地域住民の代表が1名だけなので地域密着型サービスの役割を再考し、メンバーの増員について検討されることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情や相談が言いやすい雰囲気づくりに努めると同時に、「意見箱」を設置している。また、年に2回程度、家族会の活動として旅行を計画したり、リハビリの先生を講師に講演会を開催したり交流を深め、率直な意見交換を行い運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームとして自治会、老人会に入会し、地域の納涼祭や敬老会などに参加している。また、ホームで行うバザー等には地域の人たちに声をかけ参加を呼びかけている。法人の広い敷地入り口に病院、介護老人保健施設が立地し、その奥にホームがあるため、地域の人たちが気軽に立寄れない環境ではあるが、ホームのノウハウを生かして、地域における認知症介護の拠点となることを期待したい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各ユニット毎に、精神科医師であった開設者の、認知症高齢者に対する思いを柱に、家庭的な環境の下で入浴、排泄、食事等の日常生活を送ることにより、精神的に安定し、明るく健康的に過せるように理念の作成と実践に取り組んでいる。	○	これまでの理念に加えて、地域との関係性を明示した理念の見直しを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に職員は理念を復唱し、各ユニット毎に、より具体的な理念の作成に取り組み、「個人の意思決定を尊重し、明るく、家庭的な楽しい生活」が送れるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に入会し、地域で主催される納涼祭や敬老会などに参加している。また、ホームで行うバザーなどには、地域へのポスターの掲示や声かけを行い、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、リーダーが職員の意見を聞いて、管理者が作成している。前回外部評価で指摘のあった項目は、職員間で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、地域の民生委員、入居者の家族等に参加してもらい、ヒヤリハット報告やホームの行事予定や報告等を盛り込んで意見交換をしている。	○	構成メンバーに地域住民の代表として、児童民生委員が1名だけである。運営推進会議は地域密着型サービスとして地域の理解と支援を得るための貴重な機会ですので、メンバーの増員を検討することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	吸引、爪きり等の医療と介護の区分け等に関すること、法改正に伴う不明な内容について問い合わせをし、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の面会時に近況報告を行うと同時に、定期的に(3ヶ月に1回程度)発行している「NSホームたより」に行事の紹介や報告等を掲載し、入居者の様子を紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情や相談が言いやすい雰囲気づくりに努めると同時に、「意見箱」を設置している。また、年に2回程度、家族会の活動として旅行を計画したり、リハビリの先生を講師に講演会を開催したり交流を深め、率直な意見交換を行い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等による入居者の混乱が起きないように、常日頃から、他ユニット(3ユニット)との合同行事を開催したり、互いに訪問しあい顔見知りの関係を作り、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内(病院、老人保健施設)で毎月1回、定期的に行われている勉強会や外部への研修、リーダー研修等、段階に応じた研修への参加を計画的に勧め、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会で行う交換研修に参加したり、法人内の介護老人福祉施設やグループホームとの交流の機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、自宅または施設に訪問を行い、職歴・生活歴・病歴等の状態を把握すると共に、利用前に、本人と家族にホームに遊び(見学)に来ていただき、場の雰囲気に馴染んでいただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、洗濯物をたたんでいただいたり、食器の片付けや食器を洗ってもらったり、居室や共同空間の掃除等職員と一緒に助け合いながら過ごしている。夜勤や遅番で職員が少ない時には、「お姉さん、お米とき手伝いしましょうか」と入居者からのやさしい声かけもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの希望や意向を反映したケアを重視し、「頭が痛い」と入浴を嫌がる入居者、帰宅願望の入居者には、無理に推し進めるのではなく、根気よく入居者の納得を得て、本人本位の支援を行っている。また、入居者に毎日日記をつけていただき、自分の思いを記録できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の介護記録を参考にして、家族の都合に合わせて、できるだけ家族に参加していただき、カンファレンスを行って4ヶ月毎に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月毎の介護計画の見直しの他、退院後の様態の変化や転倒等のトラブル発生後の対応については、医師や家族の意見をもとに、変化に応じた介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者が状況に応じて、ショートステイやデイサービスの利用ができるようにしている。入居者の通院を支援したり、医療連携体制加算を算定している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の意向に添ってかかりつけ医を決めているが、現在はすべての利用者が法人の病院をかかりつけ医とし週に1回程度往診医療を受けている。又、協力病院との契約により医師、看護師による24時間連絡体制を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは重度化した場合における対応に係わる指針を定め、入居時に入居者、家族に文書及び口頭で説明を行い、同意を得ている。また、看取りに関する指針も定めているが、現状では困難と考え、将来に向けて検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に基づき入居者一人ひとりに思いやりのある態度で接し、個人の誇りやプライバシーを損ねないよう日常の介護の中で職員に徹底している。また、記録などはイニシャルを使用したり、面会簿の管理も職員が行っている。「NSホームたより」等に掲載する写真や情報の取り扱いについては、家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人になりたい入居者、編み物が好きな入居者、水墨画を書く入居者、見守りが必要な入居者へ個々に援助をしている。雨の日以外毎日、老人保健施設までごみ捨てをかねて散歩をしたり、新聞の読み合わせをする等家庭的な雰囲気の中で、本人の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいもの「リクエストメニュー」をお聞きし、献立に反映すると同時に、食材の買物、野菜の皮むき、食器洗浄、米ときなど出来ることを職員と一緒に言い食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、14時～16時30分の間に行っているが、一人の入浴回数は週に3回となっている。身体を先に洗うとか、浴槽に入るのが先とかの入浴方法や風呂滞在時間は本人のタイミングに合わせている。尚、夜間入浴は今後の課題としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	専業主婦だった方が多いので、台所仕事を好まれるため役割担当表を掲示している。入居者と職員と一緒に庭に野菜や花を作り、草むしりや収穫を楽しんでいる。新聞記事の「うらない」「運勢」「広場」欄を毎日みんなで読んだり、カラオケ、百人一首や絵あわせなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩の他に、食材や日用品の買物、フラワーパークや公園に出かけている。また、家族会と協力して、今年はホテルでフランス料理等の外食や1泊2日の温泉旅行などを行い、一人ひとりの希望にそった外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方になると不穏になり外出しそうな入居者もいるが、安全に配慮しながら鍵をかけない、出入り自由な環境としている。鍵をかけないケアの実践の大切さは、職員全員が認識している。尚、安全確保の為に玄関にはセンサーによるブザーが付けられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルがあり、年2回の夜間の訓練も含む避難訓練が実施され、消防署の指導を受けている。1ユニットは単独で行うが、2ユニットは療養型病床と一緒にいる。災害時には同法人の病院、老人保健施設に協力をお願いしているが、地域との関係(近隣協力者)は今後の課題である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量を個人ファイルに記録し、体重は半月毎に測定し、健康状態の把握に努めている。週に1回、定期的に老人保健施設の管理栄養士に献立や行事食をみていただきアドバイスをいただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	格子戸風の玄関は、日本の古い家屋を連想させる暖かい雰囲気である。入居者の靴の履き脱ぎに配慮して、小さな椅子も設置させている。野菜畑や花壇になる庭に面した明るいホールには、観葉植物や鉢植えの季節の花が咲いており、入居者は大きなテーブルを囲んで、百人一首を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた整理ダンス、鏡台、椅子等が持ち込まれ、家族の写真や絵画や折り紙の自分の作品が飾られ、庭に面した窓にはカーテンはなく障子風になっており、家庭生活の延長線上で心地よく穏やかに過ごせるように配慮されている。		